

【収 録】 3・4月 新聞やインターネット等から眼についたニュース整理

思いつくまま 気になったニュース等の切り抜き・転載 2025.5.12.

コメントなしでの転記掲載に疑問と承知していますが、私の好みの選択転記・書き写し。ご参考になれば…
本年春は良くも悪くも世相はトランプ関税一色。トランプアメリカ大統領に振り回された春
国際協調・国際感覚など何のその。 わが身の思うまま 気の向くまま 米国は利己保護主義一色への政策転換
世界が混とんとする中で、かつての皇帝・将軍の時代を思わす振る舞い。大統領令連発等々 議論も討論も何もな
いまま 唯我独尊。思いのままの政策展開。意にかなわぬ意見を「フェイク」と切り捨て。それでいて持論もコロ
コロ変える状況。自分の意はあるが、きっちりした詰めは見えす。
トランプ大統領の政策をどうとらえるべきか疑心暗鬼。世界の政治・経済・産業がトランプに振り回される。
この先 世界はどうなるのか 景気・政治・経済そして今も続く戦禍と物価高。
また 日本はどう動くのか・・・

1. 神戸新聞朝刊 2025.4.30.文化面 コラム
「汀にて」 鷲田清一 <単位をめぐって> 身体感覚に基づき、世界探る
2. 神戸新聞朝刊のコラム「正平調」
気になった3・4月掲載の抜き書き転載でこの春を振り返る
3. 文珍さんの落語見聞録 3月・4月

AI時代への対応をしっかりと頭に入れて 2025.4.31. Mutsu Nakanishi

混乱の時代の中で 世界はAIが席卷する高度情報社会 効率優先のAI判断の文書作成と処理。
今まで、良い事ばかりが宣伝されてきたが、WEB・SNSを通じての偽情報の流布・犯罪へのAIの関与。
真偽の見分け判断がつけにくい上、AIを使いこなすことにより、著しい自己判断力・記憶・情報力低下の時代
へまっしぐらの懸念も。(PC・Webでも膨大なデータ蓄積のあるAIソフトでの処理を簡単に使える時代に)
一見すばらしいパワーを秘めた高度情報社会へのアプローチも、半面 機械万能がもたらす無気力・根拠不明
な機械依存 AI 優先の時代の幕開け懸念が広がりつつある。 世界を揺るがす偽情報は、今や個人レベルでは
見抜けぬ時代になりつつあり、しかも偽情報除去技術や管理は不明確。本物と変わらぬ偽情報埋め込んだweb
サイト等々 偽情報が益々横行・氾濫状態で、裏社会はますます拡大の兆し。
歯止めのかからぬAI・偽情報が政治の世界を動かし、人類を破滅へ追い込むと 警鐘を鳴らす人たちも多い。
今やいたるところで賛否両論。AIや偽情報がまかり通る社会に疑問を持ち、意見を述べ始めた。
でも 我々を取り巻く周囲で AIの活用は その利便性ゆえ無防備のまま急加速で広がっている。
急がないと世界はますます混乱を招く時代へ・・・

- ◎「フェイクニュースと言いつつ攻撃するトランプそのものが流すフェイク」ではないか?
- ◎ 即答・会話ができなくなった最近の国会議員の先送り・模範的な責任回避の答弁もますます広がり
当事者意識のなさ、マスコミ 政治・経済の指導層に益々広がっている。
- ◎ 最近「AIで作成した」というNHKのニュース 変なところがないかと注視するも素人では無理。
- ◎ 新聞のコラムは個性が売りと思うのですが、どうも執筆者によってはAIをおもわせる無味乾燥な
恣意的と見えるコラムも散見、インフルエンサーの上を行く総花解説的で雑に見えるコラムもある。

上記の私の雑文 特に悪意なく、私の感じたままの記述です。

今こそ 老いも若きも 物事の価値判断・判断力の醸成が世界を動かすカギになるとの思いのみ。
色々なことがあった本年の春 私が眼にした記事の中から、気になったニュース等を切り出しました。
世相・世界が混乱の中にある今 何が起こるか、判断のつかない昨今
受け止めは人色々ですが、真偽を見抜く判断と判断力を磨かねば・・・と。
本当に思いもかけぬ事が次々と・・・ 他の人はどんな風に受け止めているのでしょうか…
コメントなしでの転記掲載 消化不良でしょうが、私の眼で眺めた選択転記・書き写し。
ご参考になれば

神戸新聞朝刊 2025.4.30.文化面 「汀にて」より

社会の動きに対する独創的な考察を、平たく深い言葉で発信する哲学者・鷲田清一氏のコラム

【1】「汀にて」 鷺田清一 <単位をめぐって> 身体感覚に基づき、世界探る

<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/culture/202504/0018928312.shtml>

1967年、中公新書の一冊として、物理学者・湯川秀樹と比較文明学者・梅棹忠夫の対談録『人間にとって科学とはなにか』が刊行された。（その後増補もされ、現在は中公クラシックスで読める）

この対談では、当時まだ40代だった梅棹がかなり大胆な発言を続々と繰りだす。だから、次にどんな鋭い指摘や仮説が出てくるか、ドキドキしてページを繰る。

たとえば数学の話になったとき、こんな発言に出くわした。

《私は数の起源は動物の個体性にあると思うんです。》

数えるということの本質がどのあたりにあるか、わたしはこれまでよく考えてこなかったが、梅棹はこう説明する。無機的な物質の世界に於て、それがどういうときに一つの物

これに対して動物は、大きさに多少の違いはあっても同じかっこうをしたものが次から次へと出現してくる。「単位性をもった同じ種類のものがたくさんある」というのが生き物の特徴で、算術の基本にはこうした単位性があるというのである。もちろん、数学にはこうした算術経由でない、幾何学的なイメージや直観に基づくものもあると認めたうえでの話である。

動物にみられるこうした単位性、それは、動物には、それぞれに有機体としての活動に個体的な統一があるということであろう。「単位」(ユニット)であるというのは、個体として完結した統一(ユニティ)がその存在のうちに認められるということなのだ。この個体的統一ということにおいてはじめて、同じ一つのものであるというその存在の有(あ)りよう(アイデンティティー)が成り立つ。

■ 測定と実感

周りの世界の認知ということでは、「数える」とならんでもう一つ、距離や長さ、広さ、分量、重さなどを「はかる」（測る・量る）という方法がある。この場合には「数える」とは逆に、「単位」ということが「はかる」側にみられる。

ひとは今でこそさまざまな測定器、それもデジタルで表示する電子的な測定装置をもっているが、周囲の世界を「はかる」のに最初に用いた補助手段は、ほかでもないおのれの身体であった。

掌（てのひら）を大きく開いたときの指の両端とか、指先から肱（ひじ）までの長さとか、両腕を水平に開いたときのその一方の端から他方の端までの長さとか、さらには両掌を丸めたときにできる凹（へこ）みや一歩の歩幅とかいうふうに、身体の一部やその動きの範囲を「単位」にして「はかる」。

[illegible]

そこからさらに身体の延長とも言うべき道具も編みだす。

定規や柄杓（ひしゃく）、升などがそうで、これらで、本来は「数える」ことのできない穀物の粒や粉、さらには無機的な砂や水の量まで「はかる」のである。

このように、ひとはもののサイズや分量を「はかる」ときに、その作業のために身体を用いた「単位」というものを必要とする。そしてそのことで、ものの大きさや分量をいわば想像的に実感してきたのである。

■ピントを合わせる

こじつけではないと思うが、ものを数えたり、はかったりして世界を探ることはたぶん、「調べる」ということにも通じている。

調べると言えば、音曲（おんぎょく）のこともまた調べというのがなぜか、以前から不思議だった。

「岩波古語辞典」を引くと、「調べ」とは「楽器の絃（げん）の末端（しり）を合わせて音調を整えること。転じて、いろいろの材料を照合して考えること」とある。調べは楽器を調律し、演奏することであり、さらにものを吟味し、ものに尋ねることなのである。

言ってみれば世界の有りようを探るにあたって、それにピントを合わせること。学者がああでもない、こうでもないと首を傾（かし）げつつ、試行錯誤している場面を思い浮かべてもいい。そのときに媒介になるのが尺度や単位性ということなのだろう。

ひとは世界のなかにまさに身を挿し込んでそれを「はか（測・量）」り、さらにはそれに基づいて世界への介入をも「はか（図・謀）」ってきたのだろう。

だから、自動の測定器や検査の装置がいかに整備されても、この身体感覚を外してしまえば、世界のリアリティーもそれこそ大根の鬆（す）のようにすかすかになってしまうはずである。

■代わりのきかなさ

最後に一つ、問いが残る。「ひと」（人格（パーソン））ははたして「単位」となりうるかという問題である。この人、あの人というふうには、「ひと」はそれぞれが、つねに特定の「だれ」という、それこそ代わりのきかない特異性においてあるもの、別の人で代替できないものである。

この「だれ」は数に還元することができない。

「ひと」はたしかに集団の単位ではあるが、しかし数に還元されれば「ひと」であることをやめる。

「ひと」がたんなる集団だけでなく、「社会」を形成しているとはそういうことだと思うのだが、それを調べるにはまた別稿が必要となる。

【わしだ・きよかず】 1949年京都市生まれ。京都大大学院博士課程修了。

元大阪大学総長、元京都市立芸術大学長。サントリー文化財団副理事長。専門は臨床哲学。

「モードの迷宮」（サントリー学芸賞）、「『聴く』ことの力」（桑原武夫学芸賞）など著書多数。

哲学者で元阪大総長 鷲田清一氏の3ヶ月に一回の神戸新聞のコラム「汀にて」

毎回何が取り上げられるのかと楽しみ。むづかしい内容を整然と切り分け、核心の課題を見出し、明快なアプローチ。色々教えてもらう楽しみ。今回は人類が作り上げた「数える」と「測る」そしてその意味とは？

会社に入ってから私の仕事分野は「鉄鋼材料」「溶接冶金」。そして、最初に叩き込まれた「ディメンション」のこと。物理解析の基本として、「ディメンションの違うことを一緒にたに組み込んで論ずるな」とよく言われた。

すぐ数値にこだわるが、その前に「数」= 顔を出さぬ要因のベールはがさねばと、今になって判ったような気がする。

「数える」と「測る」。わたしの理解では、「要因」の数と「その数値」を同じ土俵にあけること。

今に至る人類が延々とつないできた重要なキーワード・視点・尺度。見過ごされがちな表情・匂い等々もまた、隠れた人の尺度。「人を人として扱え」との言葉をよく聞かすが、「数」と「数値」をごっちゃにしてはならない。

複雑な社会に暮らす我々。今 どう扱われているのか どう扱わねばならないのか その尺度は何かと???。

遠くなった若時代を思い出させてくれました。こんなことも考えていたなあ・・・と懐かしく。

2025.年4月 鷲田清一先生のコラムをふりかえりつつ Mutsu Nakanishi

神戸新聞朝のコラム「正平調」

【2】 気になった3・4月の「正平調」 抜き書き転載でこの春を振り返る

◆ 神戸の春を呼びいかなご「新子漁」 本年も不漁で休漁 3月14日

正平調

「檀流」の看板を掲げ、文壇随一の料理人といわれた方だけあって、さすがはお目が高い。日本で最もいい食品に恵まれているのは「考えるまでもなく瀬戸内地帯」だと、檀一雄さんが書いています◆明石、家島、小豆島、さらには岡山から山口に至るまで「魚介類の宝庫をひかえて、あんなに、原料の贅沢な地帯は、世界でも珍しいに相違ない」と（「美味放浪記」）。とにかく褒めである◆瀬戸内からいただく魚介の恵みは数あれど、春の食卓は何と言ってもイカナゴにとどめを刺す、この地元の声は決して大げさでない。熱々ご飯のお供にくぎ煮ーそんな庶民の味に異変ありといわれ、もう久しい◆店頭価格が1kg1万円を突破したという記事に目が飛び出た。播磨灘で始まったイカナゴのシンコ（稚魚）漁は今年も不漁で、今日をもって終えるという。値は年々上がるばかり、おまけに今年はコメまで高い◆阪神・淡路大震災が起きた30年前も人々はくぎ煮づくりをやめなかった。仮設住宅から立ち上る甘い香りは、生活復興へののろしでもあった。今は庶民の味を気兼ねなくいただける食卓再興の日が待ち遠しい◆誰よりもつらいのは、瀬戸内の恵みを届けたくとも届けられない漁師さんたちだろう。春の海が泣いている。 2025.3.14

◆ 二人称には敬称と親称 英語には「YOUのみ」

トランプ大統領がゼレンスキー大統領を出迎えて云った「YOU」はどっち 3月15日

正平調

あなた、これを読んでいるあなた、あなたと言われて、どう思いますか？失礼と立腹するか、そうでないか。最近も交流サイト（SNS）で論争になっていた◆ドイツ語などでは、二人称に敬称と親称があり、「あなた」と「君」のように訳し分けると習ったもの。ちなみに、新明解国語辞典によれば「自分と同等程度の相手を軽い敬意をもって指す言葉」だ◆しかし、現在は敬意が下落し、「特に男性が目上の人や初対面の人に用いると、見下したような印象を与えやすい」とも。確かに。わざわざ二人称を使うと、距離感がある。「あなたは何様ですか」と言われたら、立ち直れそうにない◆いや、あなたに罪はない。校正者の大西寿男さんは「その場の状況や文脈により、人をばかにする言葉にも尊重する言葉にもなる」と話す。だから「適切か不適切かを主張し、正しさを譲らないのは悲しい」と◆二人称が「YOU」だけの英語も、そうだろう。トランプ米大統領は、普段と変わらぬ黒いシャツで現れたウクライナのゼレンスキー大統領を出迎え、言った。「ユーは今日、随分着飾っている」◆どちらの「あなた」かは明らか。通訳抜きで会談が事態を悪くし、米世論は二分した。どうか主張の前に尊重を。あなたに、切に願う。 2025.3.15

日本には政治家や会社幹部がよく使う自分の一人称を三人称化して使う耳障りな表現もある…

これらからくみ取れることは…………… Mutsu Nakanishi

◆ 3月18日 お腹いっぱい食べて 「まあいいか」が幸せの道

人と人を結ぶ滋味豊かな人生は皆を笑顔にする

正平調

「どうしたら自分を好きになれるか？」。問われて、まず「俺もこういうふうに悩みたいなあ」「ある意味うらやましい」と返す。若いのに物忘れがひどい、との相談には「人間は忘れることがすごく大切だと思うんよ」◆読みながら何となく、なるほどなあ、と思わせられるのは雑誌「ビッグイシュー」の人気連載だ。雑誌を売るホームレスの人たちが読者の悩みに答える◆連載には「悩みに効く料理」を添えて盛り上げるのひどい、の悩みに「記憶力アップに役立つDHA豊富な青魚を」と、サンマの有馬煮を紹介するといった具合に。その枝元さんの計報が届いた◆食いしん坊を自任する作家の田辺聖子さんがエッセーに書いている。ホイホイ、サッサと作って食べさせ、「どう？ いけますか？」とニッコリ笑う人が好き、と。テレビや雑誌でおなじみの枝元さんのこやかな顔は、まさにそんな感じだった◆ビッグイシュー基金の共同代表や農業支援などの社会活動に、積極的に関わり続けた。人と人を結ぶ滋味豊かな人生は皆を笑顔にする料理のよう◆「おなかいっぱい食べて、『まあいいか』が幸せへの道」。枝元さんの言葉をかみしめ、今日も「いただきます」を唱える。 2025.3.18

◆ 3月20日 春分の日 本年4月20日イースター休戦の願い

正平調

〈トトトと鳴る徳利や桜鯛〉。春が来れば必ずこの句を思い出す、俳人の宇多喜代子さんが本紙の「随想」に書いていた。京極柊陽の作。華やぐ食卓の風景が浮かぶ。きょう

は春分の日◆春分は二十四節気の一つ。古代中国の暦法で、それが日本に伝わってきた。昼夜の長さがほぼ等しい日。洋の東西を問わず人々に意識されてきたが、キリスト教徒にも大きな意味がある◆春分の日その後、最初に迎える満月。その次に来る日曜日に毎年イエス・キリストの復活祭（イースター）が行われる。クリスマスと並ぶ重要な行事だ◆今年は4月20日。ロシアやウクライナなどに信徒が多い東方正教会ではカトリックやプロテスタントとは違う暦を使う。そのために復活祭の日も異なる。だが今回は偶然同じ日になった◆ウクライナ侵攻が始まった2022年、ゼレンスキー大統領は4月24日の復活祭に合わせた休戦を提案した。国連のグテレス事務総長も同様の人道的停戦を訴えた。しかしロシア側が拒否した◆トランプ米大統領とロシアのプーチン大統領が電話会談し、一部で合意した。完全な停戦につながるのか。家族で穏やかに春の食卓を囲む。東西の復活祭が重なった今年、そんな一日がウクライナの地に訪れることを心から願う。 2023.3.20

◆ 4月2日 人間のことは聞こえるか 耳に問うてみる

正平調

「人間のことは」しか持たない自分には会社の理不尽に歯向かうすべがない。〈会社の耳には〉会社のことばしか通じなかったから。石垣りんさんの詩「定年」である◆14歳で事務見習として銀行に職を得、定年まで勤め上げた石垣さんだが、思うところはいろいろあったらしい。〈たしかに〉はいった時から／相手は会社、だった。／人間なんていやしなかった。と、なかなか手厳しい◆会社のことばしか通じない実例というものを、きのうの新聞で見た。その会社では性暴力が「男女間のトラブル」に変わり、被害者の退職は「ひと段落」、口封じは「見舞金」というらしい。フジテレビで

ある◆当時アナウンサーだった女性が元タレントから性暴力を受けていたと、フジテレビの設けた第三者委員会が認定した。調査によると、被害は「業務の延長線上」で起きていたという。まともな職場ではあるまい◆「ハラスメントに寛容な企業体質」と異様な指摘もされている。人間のことはに敏感で、人権侵害やハラスメントには真つ先に非難の矢を放つべきメディアが足もとの訴えに鈍感であるなら、信頼は地に落ちる◆残念ながらフジテレビに限った話だと言いつける自信は、ない。人間のことは聞こえるか。耳に問うてみる。 2023.4.2

◆ 4月4日 自動車ショー歌♪ここで止めてもいいコロナ～だれか大統領の耳元で歌の続きを

正平調

小林旭さんの懐かしいヒット曲「自動車ショー歌」には、数多くの車種やメーカーの名が出てくる。♪骨のずいまでシボレーで あとでひじて フクラウナー◆シボレーだけでは

なく、歌にはフォードにリンカーンと米国の車もそれなりに登場するのだが、トランプ大統領がお聞きになれば、よくない機嫌が少しは直るだろうか。いや待て、「まだまだ少ないぞ」と怒りを増幅させるかもしれない◆日本で米国車が売れないのは「不均衡だ」とのいらだちを隠さない米トランプ政権が、輸入車に25%もの追加関税をかけた。さらには、世界の貿易国に対して「相互関税」なる新たな関税を一方的に課するという◆予測不能のハンドルさばきでアクセスを踏み続け、国際ルールというガードレールも突き破る米国の暴走は止まらない。株価は急落、世界経済はエンストの危機にある◆車の修理屋が言ったという。「ブレーキは直らない。代わりにクラクションの音を大きくしておいたぜ」。このジョークをトランプ流に言い換えれば、「貿易赤字にブレーキがかからない。腹いせに脅しのクラクションを鳴らしまくるぜ」となるうか◆貿易戦争に勝者はいない。♪ここで止めてもいいコロナ。だれか大統領の耳元で歌の続きを歌わないか。 2023.4.4

◆ 4月9日 新一年生「おはようございます」の声が駆けてゆく 平和への祈り

正平調

丹波で西播で、車窓から見える山並みにヤマザクラが彩りを添える季節になった。六甲山では、明かりをともしたばんぼりのようにピンク色の固まりが一つ、また一つ◆本紙地域版を繰ると各地のサクラの便りとともに、始業式や入学式の記事が紙面を飾る。自宅近くの小学校でも子どもたちの声が響き、通勤途中の傍らを「おはようございます」

の声駆けていく◆春の光景がかけがえない日々大切さを思わせるのだろうか。投稿の発言欄や「イイミミ」のコーナーで「平和」の文字を目にするようになった。ガザやウクライナの惨状へのやるせない思いを交えて◆今春、72年の歴史に幕を下ろした育児雑誌「母の友」（福音館書店）が最終号に掲げたテーマは「生きる」。先の戦争で3人の兄を亡くした、創刊編集長の松居直さんのメッセージを再掲する。「生きる」ということをみなさんと共に考え抜きたい◆呼応して言葉を寄せるのは生命誌研究者の中村桂子さん。「私は戦争と対比されるのは（平和より）日常だと思っています」「ガザでもウクライナでも子どもたちから日常が奪われています」◆かの地の子どもたちが一日も早く、日常を取り戻せますように。私たちの地域の子どもの日常がずっと続きますように。 2023.4.9

◆ 4月13日 2025 大阪万博開催に思う
分断が進む社会で今度こそ、「調和」の実現の芽を

正平調

1970年の大阪万博で話題を呼んだ「人間洗濯機」。卵形のカプセルに入ると、超音波で発生させた気泡が体の汚れを落とす。10歳の少年はそれを見て、自分が使う姿を思い描いた◆だが家庭には定着しなかった。人間の毛穴に入り込むほど小さな泡を、当時は人工的に作れなかった◆少年は社会人となり会社を起こした。流体力学の技術者を迎え、微細な気泡を開発。今は会長を務める青山恭明さんの脳裏には、10歳の頃に見た夢があった◆看板商品はシャワーヘッド。油性ペンで頬に付けたインクを、気泡を含んだ水で落とすCMで知られる。それを応用し、きょう始まる大阪・関西万博で展示するのが「ミライ人間洗濯機」だ。大阪大と共同開発し、55年前の技術者やデザイナーの協力も得た◆節水効果があり、介護現場での活用も見込む。心拍数を測り、入浴者の状態に合わせた映像の投影も。「心も洗える」と時代のニーズを意識する◆70年万博のテーマは「人類の進歩と調和」だった。技術は確かに進歩したが、調和はどうか。分断が進む社会で今度こそ、その実現の芽を見いだす万博にしたい。

2025.4.13



西六甲西端 天空の散歩道 新緑とミツバツツジに包まれて 心地よい森林浴 2025.4.17.



開会式 参加国集う
大阪・関西万博の開会式が行われ、ステージに集まった参加国・地域などの旗手、半年間忙しむる期間中、来場者や観客の心を魅了する演出や、大阪・関西の魅力を伝える演出が繰り広げられる。12月7日、大阪府立国際会議場（仮称）で開会式が行われる。

4月13日
日曜日
神戸新聞
www.kobe-nippo.co.jp

万博きょう開幕158の国地域参加
ようこそ 未来社会へ

「いのち」テーマ、世界共有を
大阪・関西万博のテーマ「いのち」は、世界に共有する価値観を伝える。大阪府立国際会議場（仮称）で開会式が行われる。大阪府立国際会議場（仮称）で開会式が行われる。大阪府立国際会議場（仮称）で開会式が行われる。

大阪・関西万博の概要
期間 2025年4月13日～10月13日
会場 大阪府立国際会議場（仮称）
入場料 大人1,500円、小学生以下500円
観覧料 大人1,500円、小学生以下500円
観覧料 大人1,500円、小学生以下500円

◆5月2日トランプのスローガン「米国を再び偉大に!!」 日本の常道だった日本外交の転機になるかも

正平調

どっちが上座でどっちが下座か。迷った人が昭和の喜劇俳優、古川ロッパに尋ねた。「ボクはどこに座ればいいでしょうか?」。ロッパは答えた。「どこへでも座れ、おまえが座ったところが下座だ!」。森繁久弥さんの回想にある◆前回の渡米でトランプ大統領と相対し、「(自分は) 格下も格下」と語ったその人の座席が下座であったかどうかは知らない。トランプ氏のスローガンである「MAGA (米国を再び偉大に)」と記された赤いキャップも笑ってかぶってみせた◆今度は赤い法被でも着てくるのではないかと勝手に想像を膨らませていたが、それはなかった。赤沢亮正経済再生担当相がワシントンで2度目の対米協議に臨んでいる◆場当たりの関税政策で「おれが座ったところが上座だ」、そう言わんばかりの一方的な主張を繰り返すトランプ流には閉口するが、国と国との交渉ごとに上座も下座もない。丁々発止、主張をぶつけてほしい◆プレッシャーをかけるわけではないけれど、国内はむろん、世界がその成り行きを注視している。各国に先んじての交渉は「まずは諸外国の動きを見ながら」が常道だった日本外交の転機となるかもしれない◆胃が痛みますね、赤沢さん。協議を終え、どんな顔で何を語るか。

2025.5.2

本年の春はトランプ米国大統領に振り回され続けた本年の春 日本の行く先は.....

また、平和な暮らしへの願いが累々と。正平調は取り上げていませんが、何か腑に落ちない中で続くコメ不足・コメの高騰も。 春の花盛りから新緑へ 素晴らしい春景色でしたが、平和な暮らしへの願いは切実に。

厳しい中で老化和向き合う世代ですが、時代に流されぬよう 前向いて 2025.5.12・ Mutsu

【3-1】文珍さんの落語的見聞録 3月 神戸新聞朝刊連載より転記 2025.17.

「新技術でホントに命輝く未来？」

神戸新聞NEXT



新技術でホントに命輝く未来？

このところ春めいてきたル化等のテクノロジーと人
 と思いきや、花粉症に悩ま
 され、薬屋に行けば「スギ
 薬局」。ティッシュで鼻を
 かんんでいるうちに鼻が赤く
 なり顔をかくすほど大きな
 マスクのいる時節、TVニ
 ュースで、近づく万博が
 けてマスクをしていても通
 ることができる顔認証の地
 下鉄の改札ができていて、
 と報じていた。1年以上前
 から実証実験したらしい。
 何度か地下鉄に乗るが、
 その顔認証ゲートを通って
 いる人を一度も見たことが
 ない。試しに私は一度通っ
 てみた。するといきなり×
 (バツ)が出た。何でも顔
 を登録しないとダメらし
 い。そんな面倒なことをす
 る人がいるのか？ 大体、
 人の顔は個人情報のかたま
 りみたいなもの、この人物
 が何時どこからどこへ移動
 していることを知られて気分
 がいいはずがない。デジタ
 ル化等のテクノロジーと人
 間の気持ちの合わないの
 だ。
 いよいよ近づく万博では
 一気にキャッシュレス化を
 進めようとの意図があるよ
 うだ。JR東海では東海道
 新幹線のワゴン販売が無
 くなった。私は車内で売っ
 いたカタイカタイアイスが
 好きで、車内で「アイスが
 欲しいのですが」と言っ
 「モバイルで注文してくだ
 さい」と言う。そこで「モ
 バイルで何ですか？」と聞き
 返したら相手はアイスより
 カチカチに固まっていた。
 しばらくしてやっとアイス
 が来たと思ったら手にはタ
 ブレット、「これで注文し
 てください」と…。面白
 すぎる。
 落語「松山鏡」では親孝
 行で正直者の正助が領主に
 ほうびに何が良いかと問わ
 れ、「亡くなった父親に会
 はやって来ないと思う。
 (かつら・ぶんちゃん)落語家
 〓 次回は4月17日 〓

今日はスマホ決済や顔認証の話 年寄りに新しいことは難関。

肌に合わぬことはすぐ忘れるし、まごついた思いばかり。文珍さんが言うように「ある ある」と。

落語は「松山鏡」。この落語は知りませんでしたが、その落ちに思わず笑っちゃいました。

スマホの使い始めた時を思い出す。スマホカメラに写るのは自分の顔ばかりと。とほほ…

若者も年寄りもみんな 肌に合うテクノロジーでなければ やっぱり輝けない。

「安物買いの銭失い」というが、何度やったことか「新しもの買いの銭失い」と

文珍さんの落語的聞録 4 月

新聞神戸新聞朝刊連載より転記 2025.17.

【3-2】「トランプ関税と千両みかん」

神戸新聞NEXT



トランプ関税と千両みかん

世の中ハラスメントなるものが、私だけだろ言葉が広がり、やれセクハラ、パワハラ、マタハラ、カスハラ、人の金でギャンブル依存症になったミスハラ(水原)と、山のようなハラスメントの中、アメリカ大統領の関税によるハラスメントかと思われる強引き、これはトランプハラスメント、トラハラではなからうか…と思う。今、今月の9日に発動してわずか時間部分凍結したとか。米国に交渉をしている国や地域に90日間の停止期間を設けるそう。どうやら米国の株や米ドル安、米国債なんぞの不安定さが影響を与えているらしい。そのトランプ氏の発言のたびに株を持っている人は一喜一憂。朝令暮改のトランプ政権、日本はどれぐらいいの関税になるのか気になっているところで、交渉を見守っている。政治と商売を一緒にくたにしている感じがこちら探し、やっとな満の

じがするのは、私だけだろうか…。そんな中、中国との関税の報復合戦はすごい。今のところ互いに譲らず、12.5%の関税をかけ合うと報じられている。いずれ交渉するだろうが、中国は米国債も日本に次いで多く持っているそう。互いのカードを出し合いながら、まるでラスベガスのカジノでトランプゲームをやっているように見える。株を何も持っていない私も気になるところだ。トランプ氏の周りにはどうもイエスマンしかいないように見える。大きな国の大統領ともなれば、自国の損得だけではな

いと思うのだが…。落語「千両みかん」では船場の大きな商家の若旦那が夏の盛りに重病になり、どうしてもみかんを食べたいと言った。今のうちに冷凍か…仕方ないな。(から・ぶんちゃん「落語家」)

果物問屋に一つだけ腐っていないのがあった。値段を問えば「毎年、腐るのを承知で困ります。みな腐ったら今年ものれんに元入れをしたとあきらめます。買手がついたみかんがあれば商人冥利、一つ千両です」。これを旦那が買う。息子は大喜びでみかんの皮をむくと10房。7房食べ、残った3房をお父さんお母さん、そして番頭に食べてもらいたいと思

う。番頭みかん3房をながめ「来年、別家するのにも使える金がたかだか五十両、ここにみかん3房で三百両…ええいあとは野となれ山となれ」とみかん3房持つでドロン。

価値の錯覚もさることながら、商人の「のれんに元入れ」のフレーズがカッコイイと日本流を喜び文珍さん。さあこれから日本はどうするのか…… Mutsu Nakanishi

次回5月15日

今月 文珍さんもトランプ関税を取り上げた。政治と商売を一緒にくたにしていると見える。大国の大統領ならば、自国の損得だけではないと思うのだが…と。 落語は知っている「千両みかん」

暑い夏にはほぼ腐ってしまう「みかん」を息子のために探しまわる大店と番頭 みかんを夏まで絶やさず

保管して買手があれば 一つ千両で売る果物問屋。みんなの価値観の違う その錯覚の織り成す噺が面白い。

「アメリカに暖簾はないが、価値観の錯覚もさることながら、承認の心意気「のれんに元入れ」のフレーズがカッコいい」と日本流を喜び文珍さん。 さあ これから日本はどうするのか…… Mutsu Nakanishi

2025.5.17.転記載録